

令和7年度山梨県普及センターだより（3月号）

耕畜連携による飼料生産の取り組み ～水田での牛のエサ作り～

農業革新支援スタッフ

北杜市内では、牛の飼料としてイネホールクロップサイレージ(WCS)の生産が行われています。水田転作対策として始まったWCS生産ですが、輸入粗飼料価格の高値が続いていることもあり、今では管内の畜産農家にとって重要な地域産の粗飼料となっています。そして、イネ栽培のための肥料として牛糞堆肥はWCSを利用している畜産農家から供給されており、WCS生産は耕畜連携の取り組みとなっています。

WCSを生産している農業法人は栽培技術の向上に努力するとともに、ドローンによる播種のような新しい技術にも取り組むなど、数量・品質ともに安定したWCS生産を行ってきています。

また、当該農業法人は食用米も生産しており、収穫後の稲わらはロールに調製され、こちらも畜産農家等での利用に供給しています。

西部家畜保健衛生所では、この耕畜連携による地域内飼粗飼料生産が今後も安定して継続されるよう支援していきます。



## カーボンフリー農業を推進しています

農業技術課

県では、脱炭素とエネルギー自給型農業の確立を目指し「やまなしカーボンフリー農業モデル事業」を推進しています。昨年度は電動軽トラックや電動農機を導入し、農機の電動化に向けた実証を開始しました。今年度は、全国初となる有機薄膜太陽電池（OPV）を活用したブドウ園での発電実証と、グリーン水素を用いたハウス加温実証に取り組んでいます。

OPVは発電しながら光を透過する特性を持ち、果樹試験場では発電した電力で「サンシャインレッド」へのLED補光試験を行っています。また、水素珈琲焙煎技術を応用した水素暖房機を開発し、ハウスシャインマスカット栽培へ導入し、県産グリーン水素を燃料として、生育や暖房性能を重油機と比較しながら3年間検証します。

今後も発電量や補光栽培効果、水素暖房機の性能を継続評価し、再生可能エネルギーと水素を活用したカーボンフリー農業の実現を目指します。



図1 OPVを活用したブドウ園での発電実証



図2 果樹試験場に導入された水素暖房機